

FIG Working Week 2012 参加報告

平田 更一

1. はじめに

5月6日～10日とローマにて開催された、FIGのWorking Week2012の報告である。Working Weekは参加者が1500名以上という非常に大きな行事であるので、個人的に経験したこと、および個人として気がついたことをまとめたものであり、全般を見た感想ではないことを最初に断っておく。

2. 日本の特別セッション

そもそもこの会議に出席する機会をもらったのは、3.11東日本大震災の日本特別セッションを開催するので、その議長をやらなにかということであった。私自身は、東日本大震災についてのGISに関するボランティア活動について編集委員として取材、月刊「測量」6月号(2011)、その英語版を月刊誌「GIM」9月号に執筆(2011)、その後2012年2月に開催された自治体セミナー(社団法人日本測量協会、埼玉県GIS普及推進研究会共催)でも口頭発表してきたので、題材はあったので応諾したのであった。

しかしながら、この間、勤務先を辞職したことによる身の整理に追われ、発表の孟仕込みは行ったものの、論文の形式に書きなおす、あるいは発表のためにスライドを作成する時間はなかなかとれず、ローマ入りしてしまった。

5日にローマに到着、翌日会場であるHotel Cavellieriへ向かい登録の手続きを行った。特別セッションは、7日の16時から17時30分まで90分で5組が発表する。厳しい時間割り当てであったので、当初用意していたセッションの目的の説明を割愛し、いきなり発表となった。日本側の発表は次の5題である。

- 村井(日本測量協会):東日本大震災とつなみの教訓
- 永山(国土地理院):東日本大地震へ地図作成組織はどう対応したか?
- 吉川(株式会社パスコ):東日本大地震へ、リモートセンシングを用いた災害モニタリング
- 山際(国土地理院):2011年東北地震の太平洋沿岸における基準点再測量結果
- 平田(日本測量協会):東日本大震災におけるGISボランティアの活動
- 南城(日本土地家屋調査士連合会):東日本大震災地域における地籍図の調整

会場は50人ほどで満室になる細長い形をした狭いものであったので、セッションが始まった途中から来た人達は発表者の音声が聞きにくいものであった。村井会長の発表と同時に、FIGのTeo会長も見えられ満室の状況となった。村井会長、国土地理院と続く中で熱気がこもり、発表が終わると質問も出て、活発な状況となった。質問の多くは、測量の技術者らしく、地震により移動した基準点の移動量や再測量の問題などに集中した。

特別セッションを始める前に、今夜は開会式があるので時間の延長はないものとして、終了時間を守るように言われていたので、最後は質問を遮ったような状況で終わらざるを得なかった。

議長の仕事として、終了時に渡されたのがアンケートである。これは冒頭に FIG の Technical Session を維持するためには、セッション議長のアンケートが重要な役割を果たしてきた。大会終了時まで提出するようにとあった。内容は、発表者はセッションの意図を理解したものであったか？という質問に始まり、発表の内容は議長が期待したものであったか、スライドの出来映えは会場の人達を満足させるものであったか？等々から最後に再び議長を要請されたら、引き受けてくれるか？で終わる、A4 版 1 ページに沢山の項目が羅列されており、後日記入だけでも時間を要する内容の濃いものであった。

3. Technical Sessions

私は JFS の Commission3 に属しているので、Commission3 の主催する技術発表に参加した。次の Sessions である。

- TS01D ; Spatial Data Infrastructure
- TS02H ; Technical Aspects of Spatial Information
- TS04C ; Cadastre and Spatial Information
- TS05E ; Technical Aspects of Spatial Information II
- TS06F ; 3D and 4D Cadastre II
- TS07D ; GIS applications
- TS08H ; 3D principles and Technology
- TS09E ; GIS Algorithms

特に印象に残ったのは、3D and 4D Cadastre II の Gyula Ivan(Hungary)、GIS Algorithm Fatiha Ibannain(Morocco)の発表であった。

Ivan は Hungary の測量局次長の要職にあり、地籍整備のための法整備の歴史を要領よく説明した後、地籍図 DB における位相モデルの話に入った。彼は地籍図 DB 構築において位相モデル、特に 3D モデルを採用するに当たって、TIN モデルのみならず、ドロネー三角分割法をも検討すべきという考えである。この位相モデルを、法的に規定することをも検討していると話していた。TIN にしろ、ドロネー三角分割にしろ、計算で機械的に 3D モデルを構築することに抵抗感を覚える自分にとって、すべてを受け入れることができないが、測量の実務の技術者が 3D モデルの位相モデルに言及した意欲的な発表であった。

Ibannain の発表は、ISO19110 に従ってカタログを作成、そのカタログを用いて Ontology を構築したものである。ISO/TC211 の会議でも話題になるが、Ontology 構築において、エンジンを採用するか、エンジンを採用しないかという問題について、彼女は手際よく簡単なエンジンを採用し、Ontology のプロトタイプを作成したものである。日本の測量、GIS 領域においても Ontology の必要性は耳にするが、なかなか実用的なものを見ることは未だない。

FIG の技術発表の中には、査読付き論文と査読なしの二種類があるが、若手が書いた査読付きの論文の中には Ibannain のように意欲的な発表が目についた。

Technical sessions の他に、次の Plenary Sessions に参加した。

PS2-Plenary Session 2 ; Knowledge to Protect

PS3-Plenary Session 3 ; Knowledge to Evaluate

PS3 は参加者は 100 名ほどと少なかったが、PS2 は 400 名ほど入場可能な席が一杯となるほどに参加者が多かった。



満員の Plenary Session

Technical Sessions と Plenary sessions を見て FIG の参加者の所属を推定するのは無理があるが、政策立案と評価を中心とした Plenary Session に参加する人が多かったのは政府機関や民間企業の管理業務に従事している人の方が多いこと、Technical Session の中には発表者が揃わず中止となった Session も出たように、技術者の参加者は比較的少なかったと思われる。

4. 五つ星のホテル

会場は、五つ星のホテル。エントランスから会議の部屋までさすがに立派であった。特に目についたのは、100 号以上の大きな絵画がところせましと飾られていたことである。その他、昼食会場には、たたみ二畳ほどの大きさのタペストリーが構えていた。



ビュッフェランチ会場のタペストリー

会議室の周囲、廊下には宗教画が飾られていたが、驚いたのはこのホテルにはこのような絵画の修復室があって、修復作業を行っていたことである。日本なら差し詰め文化庁に席を置く人が行う絵画の修復を民間のホテルで実施しているのも文化感の違いかもしれない。



修復中の絵画



ところせましと絵画が飾られている

会議のスタッフも非常に教育されており、6日の会議登録の場合は会議の登録から PPT ファイルの受付などはスムーズであり、日本の特別セッションのフォルダに格納されたことを確認して作業が終わるまで5分とかからなかった。

余りに教育が行きとどき過ぎた例としては、昼食のビュウフェであった、会議の登録を終って、登録料に昼食代金が含まれていることを発見、6日の昼食時間にやや遅れたもののビュッフェランチを食べに行った。ラザニアを食べながらコーヒーを飲みたくなり、お皿を置いてコーヒーを取りに行ったら、すでに片づけられていたというように、日頃経験したことがない事象が連続した（ビュッフェランチは4日間通ったが、いつもお皿は次々と片づけられていた）。テーブルを綺麗にしなさいと教育されたスタッフと理解したが、お皿には食べ物が未だ手つかずあるのだから、僅かな気遣いで食べる人が安心して食べれるものをと少々腹がたった。

5. 観光

会議が終了した11日、1日ローマを観光した。以前 ISO/TC211 の会議でローマの地下鉄に乗った時、スリに遭いカバンのカメラを盗まれた経験がある者にとってお上りさんと観光客が多いローマは余り良い印象をもっていなかった。

ローマの歴史を知っている人は、七つの丘からなるローマと説明してくれたが、西洋史に疎い自分にはヘップバーンの「ローマの休日」の方が親しみを覚える。スペイン広場、トレビの泉、バチカン市国等々をあるいた。何処でも地図を片手に歩く観光客で一杯、さすがに観光で潤うローマという感想をもって帰ってきた。



エマヌエーレ二世記念堂の屋上から見たコロッセオ(競技場)



同じくエマヌエーレ二世記念堂の屋上から Hotel Cavalieri
(右の高塔のある丘にホテルは位置する)

6. おわりに

英語の下手さをも顧みずセッション議長を引き受け、日本からの参加者の皆さんの足を引っ張ったことをお詫びするとともに、災害時に地理空間情報がいかに利用されて災害復旧活動に効果があり、日本の技術水準の高さを熱弁された講師の方々に深く感謝申し上げる次第である。